

宮城県漁業士会報

海人

第23号 (令和6年3月発行)



KAITO



R5.6
「赤潮対策に関する
研修会 (中部支部)」



R5.11
「農業士会 × 漁業士会
南部支部コラボメニュー」



R5.8
「岩手県内先進地視察 (北部支部)」



R5.7
「宮城県漁業士会研修会」

宮城県漁業士会

仙台市青葉区本町三丁目8番1号(宮城県水産林政部水産業振興課内)
TEL 022-211-2935 FAX 022-211-2939

漁業士会とは

漁業士制度は、次代を担う漁業後継者の育成・確保を目的として昭和六十一年度に国が制度化したものです。

漁業士になるためには、地域漁業を担う中核的漁業者として、宮城県知事から認定される必要があります。活動経験や年齢に応じて、「青年漁業士」と「指導漁業士」に区分されます。

宮城県漁業士会は平成二年に発足し、令和五年で三十二周年を迎えました。当会は、北・中・南部の三支部に分かれ、研修会や先進地視察を通して会員自身の知識や技術を高めるほか、漁業後継者の育成や魚食普及活動等に取り組んでいます。

今後とも宮城県水産業の振興に向けて取り組んでまいりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【会員数(令和六年三月末現在)】

青年漁業士 五十名
指導漁業士 七十二名
計 百二十二名

会長のメッセージ

会長 小野寺 和義
(JFみやぎ気仙沼地区支所)



会員の皆さまにおかれましては、日頃から本会の活動にご理解とご協力を頂いていることに対し厚くお礼申し上げます。

令和五年度は、近年の傾向でもありましたが、より一層の高水温の継続や、低気圧による養殖筏、養殖物等への被害発生など、不安な出来事がありました。

一方で、本会においては、四年ぶりに震災後二回目となる先進地視察の実施や、体験型の新しい研修会の企画など、精力的に活動できた年であったと感じています。

一月に出席した、東北・北海道ブロック研修会では、隣県の漁業士同士で意見交換を行いました。高

水温等の共通の課題を確認する一方で、例えば、他県のアワビ単価が、私自身の浜より二、三倍近く高いなど、異なる状況もありました。大変驚くと共に、こういった情報を、漁業士会活動を通して知ることができて良かったと考えています。

ぜひ、会員の皆さまには、青年・指導の別や役職の有無に関わらず、積極的に活動に参加して、自身に役立てていただければと思いますので、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

新漁業士のご紹介

漁業士の認定

令和五年度の新規漁業士認定式は、六月六日にハーネル仙台(仙台市)を会場とし、農業士の認定式と合同で開催されました。今回は、青年漁業士一名、指導漁業士四名が新たに認定されました。新漁業士の皆さまには、池田宮城県副知事より認定証と漁業士徽章が交付されました。

また、認定式終了後は、新漁業士と県の水産職員の皆さままで意見交

換会を実施しました。新漁業士の皆さまに抱負を語っていただきましたので、ご紹介いたします。



認定式での記念撮影



認定式後の意見交換会

指導漁業士 四名



藤田 純一さん
（JFみやぎ気仙沼地区支所）



【漁業種類】ワカメ養殖
【趣味】飲み会、キャンプ
【抱負】海況の変化に対応しているよう日頃から新しいことにチャレンジし、培った知識や技術を次世代に伝えていきたいです。

尾形 貴春さん
（JFみやぎ気仙沼地区支所）



【漁業種類】ワカメ養殖、刺網漁業
【趣味】釣り、野球観戦
【抱負】指導漁業士として日々知識と技術を磨き、地域水産業の発展、活性化に貢献できるよう努力したいです。

渥美 政雄さん
（JFみやぎ谷川支所）



【漁業種類】ホタテ、ホヤ養殖
【趣味】オンラインゲーム
【抱負】指導漁業士として、後継者・若手漁師の育成に努め、地元漁業の活性化に貢献していきたいです。

千葉 和善さん
（JFみやぎ石巻地区支所）



【漁業種類】カキ養殖
【趣味】神社・仏閣巡り
【抱負】指導漁業士として、漁業の知識・技術を磨きながら、地元漁業の発展に貢献していきたいです。

青年漁業士 一名



三浦 卓也さん
（JFみやぎ大谷本吉支所）



【漁業種類】ワカメ、ホタテ、ホヤ養殖
【趣味】写真撮影、サッカー
【抱負】漁業士として、海水温の上昇にも強いホタテ種苗やワカメ種苗を生産できるように、知識と技術を身に付け、地域漁業に貢献したいです。

活動報告



令和五年度 宮城県漁業士会研修会

副会長 櫻井 健太
（JFみやぎ矢本支所）

令和五年七月三十一日、宮城県漁業士会通常総会の後に、研修会を開催しました。

昨今、漁業のみならず一次産業における課題の一つとして、従事者の高齢化や人手不足が挙げられるかと思えます。

今回は、これらの課題解決の一策として、作業の負担を軽減させる「アシストスーツ」をテーマに、一般社団法人アシストスーツ協会の皆さまをお招きしました。同協会所属の企業の方々が、それぞれの製品を持ち寄り、アシストスーツの効果的な使い方や使用場面、メリット・デメリットについてご講義いただいたほか、講義後は、参加漁業士が実際にアシストスーツを着用し体験することができました。

着脱に少し手間がかかったり、値段が高かったりと、導入に向け

た課題が分かった一方、着用してみると明らかに身体が楽になったり、購入しやすい価格帯のものもあったりと、実際に体験してみても気づくことがたくさんあり、有意義な研修会になったと思います。



アシストスーツの講義



腰の負担を軽減するスーツの着用体験

会員の皆さまには、今後ぜひ研修会にご参加いただくとともに、興味のあるテーマがあれば、事務局に相談してみると良いと思います。

令和五年度 東日本女性漁業士交流会

指導漁業士 須田 えみ

(JFみやぎ石巻地区支所)

令和五年八月二十三日・二十四日の二日間の日程で、四年ぶりとなる東日本女性漁業士交流会が青森県(むつ市)で開催され、豊嶋恵美子指導漁業士(JFみやぎ石巻地区支所)と共に参加しました。

初日は、株式会社尾駮鮮魚団代表取締役 橋本翔氏より、地域の水産物に付加価値を付けるため、①鮮魚販売、②加工品開発、③商談会への参加、④イベント開催の取組を通して「尾駮ブランド」を確立したという講演を聴きました。地域では、元々、サケを対象とした小型定置網が主流でしたが、昨今の不漁で苦しい状況が続く、その打開策としての取組のことで、大変勉強になりました。

また、講演後には、「漁業後継者」等のテーマについて意見交換を行いました。どの県でも、後継者不足だったり、通いで漁業に従事するなど昔とは異なる働き方が増えたりするという意見がありました。所属する漁協によって、一世帯当たりの正組合員数が一名から三名と幅があることや、漁業と他業種の社員を兼業する若い働き手が、会社と交渉して、就業時間を融通してもらっているといった話を聞き、興味深く思いました。

二日目は、恐山の見学、下北名産センターの視察に加えて青森県の海の幸を味わうバーベキューが行われ、楽しい時を過ごしました。



記念撮影

令和五年度宮城県 漁業士会先進地視察

理事 最知 隆

(JFみやぎ歌津支所)

令和五年九月二十六日・二十七日の二日間の日程で、四年ぶりに震災後二回目となる先進地視察を実施し、小野寺会長、江刺理事、高泉理事と四名で福島県に行ってきました。

初日は、小名浜魚市場と福島県水産海洋研究センターを視察しました。魚市場では、小名浜機船底曳網漁業協同組合 前田管理部長にご案内いただき、放射能検査室及び二階視察デッキを見学しました。放射能検査では、毎朝漁獲された全ての魚種について、スクリーニング検査を実施しており、多いときには七十から八十魚種を検査するため、朝八時から午後二時過ぎまで掛かるそうです。検査後、魚種毎に証明書と検査結果を発行し、これを添付すること、消費地市場に出荷可能となるため、強い責任感を持って取り組まれていることが伝わってきました。

水産海洋研究センターでは、根本副所長より、漁船漁業における、水産資源の管理や高付加価値化、水揚げ金額の増加を目的としたICT化の取組をご紹介いただきました。各地区の船主にタブレットと測定機器を配備し、測定されたデータ（GPS・水深・水温・塩分）は、自動的に県の記録システムに送信されるほか、漁獲データについてはタブレットで入力可能とのことでした。今後、海洋環境の変化に対応しながら、効果的な資源管理や効率的な操業を行っていくためには、重要になってくる取組だと思いました。

また、その後は、福島県漁業士の皆さまと意見交換する機会を頂きました。震災以降、全国で水産物の販路開拓・PR活動を実施しているとのこと、福島県の漁業者が何年もずっと粘り強く活動に取り組むことによって、なりわいが続けられているのだという感銘を受けました。また、担い手不足など、宮城県と共通の課題も多いように感じました。翌朝早くに出漁すること、意見交換が短時間であったことは少し残念ですが、大変良い経験ができました。



小名浜魚市場の見学の様子

二日目は、東京電力廃炉資料館及び東京電力福島第一原子力発電所を視察しました。資料館では、震災直後から現在に至るまでの経過、また、廃炉までの道のりについて、多くの動画や再現映像、模型を活用し、分かりやすく展示されていました。資料館から発電所には専用バスで移動したのですが、民家やお店、畑が震災当時のまま放置されている様子が印象的でした。発電所内は、専用バスで移動し、職員の方に、一号機から四号機の原子炉について、それぞれ震災当時の出来事と現在までの対応状況、今後の予定・目標を解説いただきました。見学の最後には、質疑応答の時間

が設けられたのですが、江刺理事の「トリチウムが水産物に与える影響は一切なく、生物濃縮は起こらないか」という問いに対して、「一切ない」と回答いただきました。個人ではなかなか計画しにくい場所なども、漁業士会として視察に行くことができ、良い機会になったと思います。来年度以降も、ぜひ企画し、実施していきたいです。



福島第一原子力発電所の見学の様子

令和五年度東北・北海道ブロック漁業士研修会

理事

たかいずみ 高泉 元幸
（JFみやぎ女川町支所）

令和六年一月二十七日・二十八日の二日間の日程で、東北・北海

道ブロック研修会が茨城県（水戸市）で開催され、宮城県から小野寺会長と出席しました。当日は、北海道と山形県を除く五県が一堂に会し、全国漁業士連絡会議テーマ「漁業収入確保のために漁業士にできる取組について」等の意見交換が行われました。どの県も、漁船漁業では冷水性魚種を中心に獲れなくなっていたり、養殖業ではへい死が多かったりと、共通する課題を感じているようでした。

また、茨城県ではシラス（マイワシ・カタクチイワシ）が過去最大に豊漁になっているとのこと、暖水性魚種など新たに獲れるようになった魚種を漁獲対象とすることや、遊漁船など漁業以外の収入確保も有効といった意見が出ました。

普段は会うことのない地域の漁業士と意見交換でき、良い経験となりました。来年度は、宮城県で開催される予定です。



研修会の様子

支部だより

支部だよりでは、北・中・南部の各支部の活動や浜で注目される漁業士の活動をご紹介します。

北部支部

岩手県漁業士会大船渡支部との交流会

当支部では、令和五年八月二十一日に岩手県大船渡市キャピタルホテル1000を会場とし、岩手県漁業士会大船渡支部との交流会を開催しました。コロナウイルス感染症の拡大により開催を延期していたため三年振りの開催となります。交流会では始めに、「養殖貝類の感染症とその対策について」という題目で東京大学大学院農学生命科学研究科の伊藤直樹准教授にご講演いただきました。講演では貝類の感染症が問題視された経緯や、主要な貝類感染症の紹介とその対策について説明がありました。カキやホタテガイ等の二枚貝が主要な養殖種となる本県の養殖業にとって非常に有意義な研修会となりました。

研修会後、両支部で「海洋環境の変化等による漁業への影響と対策」というテーマで、意見交換を行いました。

意見交換会では、今年度の異常な高水温による養殖物への影響についての現状を共有しました。両地域で養殖物のへい死が確認されるとともに、付着物による成長阻害や水揚げの遅れが見られたことから、高水温への対策が急務であることが再確認できました。本交流会は岩手県漁業士と交流する貴重な場であり、両支部会員にとって良い刺激になりました。



意見交換会の様子

岩手県内先進地視察

令和五年八月二十二日に先進地視察を開催しました。

視察先は①岩手県越喜来漁業協

同組合、②岩手県水産技術センター、③一般社団法人岩手県栽培漁業協会の三箇所、施設の見学を行いました。

①岩手県越喜来漁業協同組合では、組合が保有するワカメ自営加工場について説明していただいた後、施設の見学を行いました。主に定置網漁業に従事している組合員が利用しており、一日約四十トンの加工を行っていることなどの説明をしていただきました。施設を建設することになった経緯から、利用方法、出荷先、越喜来地区のワカメの養殖状況に至るまで詳しく教えていただきました。

②岩手県水産技術センターでは、施設内で行われている研究について説明していただいた後、研究棟を見学しました。海藻やアサリの養殖試験を行っている様子を見学し、課題や新しい養殖手法のメリットなどについて教えていただきました。

③一般社団法人岩手県栽培漁業協会では施設内を見学しながら、生産管理しているヒラメ、ワカメ、ホシガレイについて説明していただきました。参加した漁業士からの、ワカメ母藻の由来や、ヒラメの飼育水温・生産量等についての

様々な質問に対し、丁寧に教えていただき、有意義な時間となりました。

今回の視察は、岩手県独自の施設や最先端の研究を知ることのできる貴重な機会となりました。今後も当支部会員の知見を広げられる先進地視察を開催したいと思えます。



岩手県水産技術センター研究棟見学



越喜来漁業協同組合の工場見学

中部支部

宮城県漁業士会中部支部研修会

当支部では、令和五年六月二十六日に石巻市内を会場として研修会を開催しました。

今年は県内において貝毒による出荷規制が多発していたことを踏まえ、中部支部の枠を超えて参加者を募り、「環境にやさしい有害有毒赤潮対策」と題して、北海道大学の今井一郎名誉教授にご講演いただきました。



中部支部研修会の様子

講演では、有害有毒赤潮生物の発生を抑制する殺藻細菌に注目

した、発生予防対策に関する研究成果についてご説明いただき、藻場やアマモ場造成の重要性を再確認するとともに、貝毒プランクトン抑制策についての知見を深めました。

参加した漁業士からは、「貝毒プランクトン対策について考えるきっかけとなり、実りある研修会だった」などの感想が寄せられ、有意義な研修会となりました。

事務局では、今後も漁業経営の参考となる研修会を開催していきたいです。

宮城県漁業士会 中部支部先進地視察

首都圏での本県水産物の販売動向把握を主なテーマに、令和五年七月十三日から十四日にかけて、宮城県産の水産物を利用する都内飲食店と豊洲市場の視察を行いました。

飲食店の視察では、会員が生産したカキ、ホタテ、ホヤ等の水産物をシェフに調理いただき、意見交換を行いました。シェフから、直接、率直なご意見を頂くことで、生産者自身が首都圏で求められる食材や取引手法等の情報を

得ることができたことは、今後の生産及び販売に向けた取組に弾みがつくものと思います。

(上)



調理された水産物

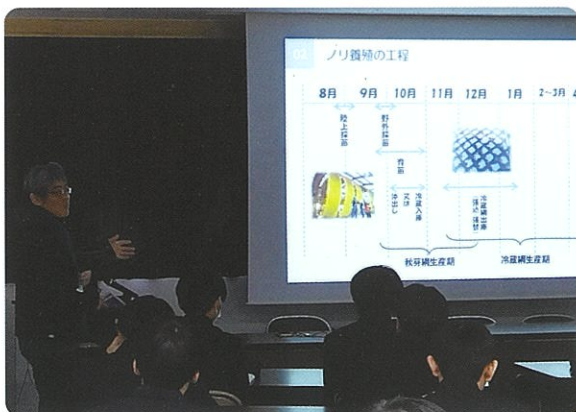
漁業士の活動紹介 ノリ養殖の出前授業

今回は、ノリ養殖業を営む相澤充指導漁業士（ＪＦみやぎ石巻湾支所）による、出前授業をご紹介します。

出前授業は、令和六年一月二十五日に、宮城県水産高等学校生物環境類型の二年生、十八名を対象に行われました。

授業では、相澤充指導漁業士から、ノリ漁師の一日のスケジュールや、仕事内容などについて説明がなされ、説明を聞いた生徒からは「漁師の仕事は大変か」や「給料はどのくらいか」などといった質問が挙げられ、漁師を進路の選択肢の一つとして考える良いきっかけとなったのではないかと思います。

当支部では、今後も漁業士による地域の学習活動などへの支援を継続し、漁業や養殖業の魅力発信や、担い手対策に取り組んでいきたいと思っています。



出前授業の様子

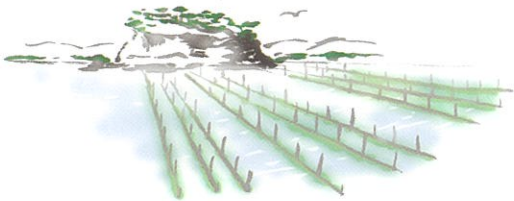
南部支部

宮城県漁業士会南部支部研修会

当支部では、令和五年六月十六日にブライダルプラザわかば（塩竈市内）を会場とし、研修会を開催しました。

研修会では、講師として宮城県水産技術総合センターの鈴木主任研究員をお迎えし、「近年の宮城県沿岸の海況状況と海水温上昇による海生生物の温度影響」と題し、ご講演いただきました。

講演では、黒潮大蛇行による影響や、海水温上昇に伴う魚種の変化について説明がありました。参加者からは、「近年ノリの初摘採時期に色落ちがひどいが、黒潮大蛇行や海水温上昇が影響している可能性はあるか」など様々な質問が挙がり、漁業士にとって有意義な意見交換、知識向上の場となりました。



研修会の様子

宮城県農業士会との交流会

農業士と漁業士が交流、意見交換することで、消費を意識した経営戦略を考え、自身の経営発展と地域産業の振興に活かすことを目的として、宮城県農業士会と当支部との交流会を、令和五年十一月二十八日に仙台市内で開催しました。

交流会は、自然災害やコロナ禍により、延期していましたが、新型コロナウイルス感染症の五類移行に伴い、五年振りに開催しました。今回の交流会開催に併せ、十一月二十八日から三十日まで、

仙台市内の飲食店六店舗において、農業士・漁業士が生産した食材を用いたコラボメニューを提供いただきました。

当日は、二十一名が参加し、協力店舗において、十種類以上のコラボメニューを試食しながら交流を行いました。交流会は、初めに自己紹介、生産している食材の紹介を行った後、お互いの活動や課題について意見交換を行いました。参加者からは、「農業士会、漁業士会全体を巻き込んだ会にしていきたい」、「最終的には、大きな会場で一次産業フェス等を開催したい」との意見が挙がりました。

当支部では、来年度以降も、他業種との交流を通じて、水産業をはじめとした一次産業の発展に尽力していきたいと思えます。



野菜と白身魚のカルパッチョ（ほか10品）



交流会参加者での記念撮影

宮城県漁業士会参加・協力行事

宮城県漁業士会では、令和五年度に以下の行事に参加・協力しました。

○宮城県漁業士認定検討会

宮城県が実施する漁業士を認定するための検討会。会長が検討委員として対応しました。

○宮城県漁業協同組合青年部総会

会長が来賓として出席しました。

○2024農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会

農山漁村の男女共同参画の推進について意識啓発を図り、女性がその能力を発揮できる社会の実現を目指すことを目的とした大会。宮城県漁業士会として大会の後援を行うとともに、会長が来賓として出席しました。

○水産青年フォーラム

県漁協青年部が主催するグループ討議形式の研修会。会長が来賓として出席したほか、漁業種類ごとのグループ（分科会）に、合計六名の漁業士を助言者として派遣しました。



わかめ・こんぶ分科会の様子
後藤章青年漁業士(JFみやぎ石巻市東部支所)を派遣

トピックス

青年漁業士養成講座について

県が主催する「青年漁業士養成講座」が令和五年九月四日・十一日に宮城県水産技術総合センターで開催されました。

本講座は、漁業士として活動するために必要な知識を身につけるものです。今回の受講者は四名で、最新の漁業情報や漁家経営のあり方、漁業士会活動についてなどの講義を熱心に受講していました。受講者の皆さまが今後漁業

士に認定され、ご活躍されることを期待しています。

○受講者

菊田 守一さん
(JFみやぎ気仙沼地区支所)
村上 昇さん
(JFみやぎ気仙沼地区支所)
及川 博海さん
(JFみやぎ歌津支所)
木村 幸喜さん
(JFみやぎ鳴瀬支所)



講義の様子

退任漁業士のお知らせ

令和五年度末までに指導漁業士認定期間が終了し、退任された方は次のとおりです。

○令和五年度任期満了

菅原 富男さん
(JFみやぎ大谷本吉支所)
佐々木 昇記さん
(JFみやぎ志津川支所)
豊嶋 恵美子さん
(JFみやぎ石巻地区支所)
阿部 雄美さん
(JFみやぎ矢本支所)
岩佐 敏さん
(JFみやぎ仙南支所(山元))

これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。

退任される皆さまには、来年度、感謝状と記念品が贈呈されることとなっています。

「みやぎ漁師カレッジ」が開催されました

県が漁業の担い手育成・新規就業者確保のため開催している「みやぎ漁師カレッジ」において、座学や漁業現場の講師として漁業士の皆さまにご協力いただきました。

令和五年九月一日から十二月十五日まで開催された長期研修では、新規就業希望者二名、漁業後継者二名、就業者一名の計五名が参加し、宮城の水産業の概要等

の座学や、カキ・ワカメ養殖、刺し網・定置網漁業などの現場研修を受講しました。

一級小型船舶操縦士などの資格も取得し、研修修了後、研修生は県内漁業の各現場に就業しています。

また、令和五年十月二十八日・二十九日、令和六年二月十七日・十八日の各二日間開催された短期研修では、宮城の漁業に関心のある計十二名が集まり、宮城の水産業の概要等の座学、定置網の網起こし、カキの水揚げ作業などを体験しました。

○ご協力いただいた漁業士の皆さま(順不同)

〓長期研修〓
三浦 恒志 指導漁業士
最知 隆 指導漁業士
鈴木 甲泰 青年漁業士

〓短期研修〓
高橋 征信 指導漁業士



みやぎ漁師カレッジPR動画

ロングver.



ショートver.



カキの水揚げ作業(短期研修)

「みやぎ漁師カレッジ」は来年度も開催される予定です。新規就業者の雇用及び本県水産業のPRの機会になりますので、ご協力いただける漁業士の方は県事務局までご連絡ください。

「みやぎ水産の日」x

宮城県漁業士会

県では、毎月第三水曜日を「みやぎ水産の日」と定め、県漁協や販売店等と連携して、県内水産物の魅力を発信する取組を行っています。

各支部で「みやぎ水産の日」にあわせた販売会などを開催しており、県産水産物をPRする機会になりますので、興味のある方は所属の支部事務局にご相談ください。



宮城県漁業士会ロゴマークを ご活用ください!

宮城県漁業士会では、漁業士の認知度向上(P.R)と漁業士が生産した商品の付加価値向上を目的として、ロゴマークを作成し、その活用を推進しています。

宮城県漁業士会の認知度向上(P.R)を目的とした取組(名刺、封筒、ホームページ、店舗入口への掲示等)、商品パッケージへの使用、及び商品の販売促進等で幅

広くご活用いただけます。詳しくは所属の支部事務局にご連絡ください。



浜のリーダーが
育てた美味しいもの



浜のリーダー
自慢の美味しいもの

海人編集委員(敬称略)
北部委員 小野寺 和義
中部委員 阿部 慶昭
南部委員 櫻井 健太

★★★
海人では、皆さまからの原稿をお待ちしています。内容は自由で、四〇〇字詰め原稿用紙二枚以内にとめ、漁業士会事務局までお送りください。